

乳児の保育 『一人一人を大切に作る保育』の実践から

事例1 1歳児クラス「食事の時間が不安だったAちゃん」

4月に入園してくる子どもは新しい環境に不安を抱えながらスタートする姿がよく見られます。そのような気持ちを受け止めつつ、保育園は楽しい場・安心できる場になるように、私達は努めています。

4月より入園してきたAちゃんは、新しい環境に慣れるのに時間がかかり日中泣いて過ごすことが多い子でした。少しずつ遊びの時間も泣かずに過ごせるようになってきた半面、食事の時間になるととたんに泣き出し、食事が取れない日々が続きました。保護者にお家での様子を伺うと食べるのは大好きとのことなので、少しずつでもAちゃんが安心して楽しく食事ができるようにと担任間で工夫していきました。

まず、なぜ食事の時間になると泣いてしまうのかと考えました。Aちゃんは大人の動き（出入りや入れ替わりなど）や扉の音に敏感で、廊下を通る大人の姿が見えただけでも、親御さんを思い出して泣いていました。それが原因の一つと考えて、廊下を背にした席に移動して、大人の動きが見えにくい席にしました。泣いて食べられない時は安心できるように背中をさすってひざの上に座らせて食べてみたりしました。食事コーナーに入るのも嫌がるので、気分を変えて窓側に机を用意して景色を見ながら食事を取る形もしてみました。看護師がクラスに入って1対1で関わって食事をとってみることもしてみました。少量ですが、いつもより食べてくれました。更に、隣のグループに座ってみたら、食べられたこともありました。基本的には遊んでいるときは泣かずに過ごせるようになってきたので、遊

びの流れのままスムーズに食事がとれるようにと、Aちゃんの好きなおもちゃを食事コーナーの椅子に座って遊んで、その席についたまま食事を始めた所、泣かずに食べられたので、そのような繋がりを意識しながら食事に誘うように心がけました。

「食事の時間が不安」という気持ちがあったと思われそうですが、そのような気持ちが軽減されるように、日中の遊びの中でも同じ大人が意識をして関わり、楽しい時間を過ごし、信頼関係を深められるようにしました。

このような関わりの中で、少しずつ食事の時間の不安が軽減されていき、食べられるようになってきました。早食いになってしまったり、嫌いなものになるとエプロンを外してしまったりする姿もありましたが、まずはAちゃんにとって食事の時間が楽しいものになるように・・・と食べられたことを認めていくようにしていきました。時間はかかりましたが、だんだんと慣れて、今ではすっかり食事の時間が大好きになりました。

事例2 2歳児クラス「場面の切り替えが難しかったBちゃん」

車や乗り物が大好きで、井形ブロックでの車作り、ミニカー、三輪車などで遊ぶことが多いBちゃん。園庭から室内に入るとき、食事を食べる時、などの様々な場面の切り替え時に遊びをやめられないでいることがよくありました。生活の流れに乗ってもらいたい思いもあり、「ご飯の時間だからお部屋に行こう」などと誘ってみるものの、反応なく遊び続けていました。無理矢理やめるように関わることもありましたが、そうしてしまうと泣いて大暴れしてしまい、次の行動どころではなくなってしまうのでした。この対応を続けたらBちゃんによい影響ないと考え、担任間で相談し、

Bちゃんがキリのよいと思えるところまで遊びを見守るように関わりを変えることにしました。「お友だちと先にお部屋に行っているから、三輪車が終わったらお部屋来てね」「ブロック完成したらご飯食べようね」などの声かけをし、その間に他の子どもを誘ったりして時間を置くようにしていきました。初めの頃は、ある程度時間を置いてもまだまだ遊びたい気持ちが強く、遊びを中断できないでいましたが、Bちゃんのペース、Bちゃんの想いを尊重して、何日も何日も受け止め続けられるように心掛けていきました。すると次第に自分で遊びを終わりにできることが増えていき、日々の生活の流れに乗れるようになっていったのです。現在では、「まだ遊びたい」と泣いて嫌がる姿はほとんどなくなりました。

子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、子ども一人ひとりの気持ちに適切な関わりができるよう日々心掛け、保育していきたいと思えます。

事例3 1歳児クラス 「遊びを豊かにする保育者の援助」

乳児クラスでは、一人遊びを十分に保障しながら、子どもたち一人一人のイメージを大切に、のびのび表現が出来るようにしています。

一言で『おうちごっこ』と言っても、その遊び方は一人一人違います。子どもたちが、自分の家庭、生活、経験をそれぞれに表現し、再現して遊ぶので、おうちごっこコーナーではそれぞれが自分のしたこと、見たもの、食べたものの記憶を再現しています。同じコーナーの中で、Cちゃんは鍋にお手玉を大盛りに入れてスプーンで混ぜ、「ゴハン、デキタヨ」と保育者やお友だちに呼びかけ、お皿に取り分けています。保育者はCちゃんの好きな食べ物や、最近食べた食べ物を思い浮かべて推測し、「カレーおいしそ

う」と言って受け取り、食べまねします。するとCちゃんが嬉しそうに「オカーリ？」と保育者に聞きます。まだはっきりしない子どもの言葉を、その子の気持ちがかくじかれないよう、なんと言っているのかをくみとりながらのやりとりをしています。

またDちゃんはお弁当の容器の中にチェーンリングを詰めてふたをしてバッグに入れ、おでかけごっこを表現しようとしています。この遊びでは保育者が、子どもたちがどんな経験をして楽しみ、再現したいと思うかを考えて玩具を保育におろしていくかを大切にしています。1歳児クラスの子でも、上に兄弟がいる子は、お弁当の嬉しさ、持ち歩くことの楽しさを知っているので、保育者は、お弁当の容器、それに入る食材となる玩具、容器を包める布、容器を入れて持ち歩けるバッグなどを用意します。そしてDちゃんの最近の楽しい経験をふまえて「動物園、行こうか」と提案します。そして保育者がDちゃんの好きな食べ物に見立てて「卵とトマトとお肉とー」と言ってお手玉を出してくると、Dちゃんもイメージが膨らんで「オニクトー」と言ってお弁当作りをします。「バスに乗るよー」と保育者が提供したクッションにDちゃんが座ると、「次は一東小金井一、東小金井一」と保育者がアナウンスし、体を揺らしてバスの揺れを表現します。動物園に着くと、手をつないで歩いて「キリンだーおっきーい」「ウサギさん、いい子いい子」と動物ごとに反応を変えて、保育者もDちゃんと一緒に楽しみ、共感し、空想の中で同じ体験をし、信頼関係をより深くし、Dちゃんもまた同じ保育者と遊びを共有したいと思うようになります。

こうして、適切に子どもの遊びを援助し、遊ぶ力を育てながら自分のイメージどおりに物を作り上げることができる表現力が育つように、日々丁寧に子どもと関わっています。

事例4 1歳児クラス 「友達に噛み付いてしまうEくん」

自分の近くに友達が近づいてくると急に噛み付いてしまうことがあるEくん。イライラしている様子の日が多いのでどのような対応をしていくか担任間で話し合いました。

大人とゆったり遊んでいる時は笑顔も多く、落ち着いた様子だけれど、そこに他の子が入ってきたり、まわりで他の子が騒いだりするとか一つとなってしまうこと、疲れていたり、眠い時は、特に口が出やすいこと…等Eくんがイライラしやすい状況が見えてきました。そこで、まずは、Eくんの好きな歌（チョウチョ、ぞうさん）を歌ったり、ふれあい遊び（「だいこん1本抜いてきて」…おなかをゴシゴシしたり、コチョコチョコくすぐったりで、Eくんも大好きです。）をして、スキンシップを沢山とって、大人と安心して遊べるようにしていこうということにしました。

スキンシップをとることで、Eくんからは「もっと（コチョコチョコして!）」と要求や甘えたい気持ちが出てくるようになりました。そんな素直な気持ちにできる限り、応えていってあげたいな、と思い、対応を続けています。以前なら物や友達にあたってしまう様な場面で、「だっこ～」と大人に甘えることで落ち着ける姿も出てきました。大人との関わりをもっとしたいEくんですが、その気持ちを受け止めながら、大人を通して周りの子の存在も少しずつ受け入れ、いずれは“友達”になって欲しいなと思っています。

「Fちゃんがおもちゃ貸してくれたよ、嬉しいね」「Gくんと一緒に遊んで楽しかったね」そんな言葉かけを意識して伝えていきました。最初は、友達が近くにいるだけで押してしまったりしていたEくんですが、最近は、「いっしょだね」と友達と嬉しそうに笑ったり、友達と手をつないだり、泣いている子がいると頭をなでてくれたり…少しずつですが、そんな姿も

出てきています。園でのEくんの様子は、ノートだけでなく、おうちの方と会った時にお話しするようにし、同時にEくんのおうちの様子や生活について聞くようにしています。筋力が弱く、疲れやすいEくんには十分な睡眠が必要なことや甘えたい気持ちに伝えて満たしてあげることが必要なこと等、おうちの方と大切なポイントを確認し合い、家庭と園とで、今のEくんの姿を受け止め、向き合っているところです。